

しば子先生の 芝生教室



先生：前は過去の気候データから理論的な芝生の養分「要求量」を考えてみたけど、今回はより具体的に『**施用量**』を考えてみましょうね・・

生徒：確かに天気は毎日変わるので月の平均気温で30日を代表させても現実とは少し乖離してしまいますね・・

先生：そうそうそこのよ・・肥料の効果はまさに『**施肥した日以降**』の気象条件の変化によって肥効も変わるし芝生の要求量も変わってしまうのよ・・・大事なことは毎月、毎週、毎日気象条件は変化しているということ・・それだけではなく一日のうちでも時間ごとに刻々と変化しているということなのよ・・・例えば朝寒くて曇っていても、午後から日が差して暖くなれば芝生は光合成を始めて養分を作り成長する・・今年のように長雨で日照不足でもちょっと晴れて数時間でも日が当たれば芝生は光合成をして成長養分を作ることができるわ・・でもその時に必要な肥料成分が土

と刈込でより多くの葉が一度に刈り取られてしまうのでストレスが上がってしまうのね・・・

生徒：そうでした・・・特に夏場は硝酸化菌による硝酸化が早くなって芝生が過剰に窒素を吸収してしまうので『**窒素固定緩効性**』が発明されたのですね・・

先生：だから肥料会社は様々なタイプの緩効性窒素肥料を開発しているのよ・・・肥料の中身や効果を考えずに安さだけで選んでいては結局**安物買いの銭失い**になってしまうわ・・養分管理は賢くやらないと・・

生徒：考えれば考えるほど窒素の施肥は難しいですね・・

先生：特に今のように毎年異常気象の条件下では速効性肥料で完全に肥効を管理・調整するのは無理だわね・・でも今はいい肥料も手に入るのよ昔よりも楽よ・・

使用場所	肥料名	成分	N緩効性	年間施肥量(g/m ²)	N	P	K	m ²	単価/m ² 2021年	総費用
ベントグリーン	グリーンズキング18	18-2-24	メチレン70%	120	21.6	1.0	23.9	12,000	¥39.4	¥472,000
日本芝FW	カスケードK	21-2-21	樹脂被覆70%	60	12.6	0.5	10.4	120,000	¥13.5	¥1,620,000

壤になれば成長に必要な養分を作れずに日照不足でただ養分を食い潰していく事になるわ・・・大事なのは芝生が伸びる条件がそろったときに必要な肥料養分がそこに適量あるかどうかということ・・・成長できる条件の時に成長させて葉緑素を増やし光合成をさせて養分を蓄えさせなければ芝生は貯蔵養分を使って消耗し弱くなり、最悪は枯れるわ・・・

生徒：しかし、窒素は暑ければ**脱窒**、雨が多ければ**流出**してどんどん土壌から無くなってしまいますから常に用意しておくのは難しいですよね・・・

先生：そこで『**緩効性窒素肥料**』が必要なよ・・・尿素や硫酸などの即効性の窒素肥料はCECの低い芝地では数日から良くて1、2週間程度しか残効がないと考えていいわ・・・窒素肥料の問題は残効が短いというだけでなく**硝酸化**されて**過剰に芝生に吸収**されてしまうという問題もあるのよ・・・農作物なら初期成育期間に硝酸化されて早く伸びるのはいいことだけど、芝生の場合は過剰に伸びる



基本的な施肥計画の一例を挙げてみるわね・・

生徒：え？ベントグリーンで一種類の肥料でいいんですか？！・・コストもリーズナブルです・・

先生：そうよ・・だって芝生は**窒素とカリ**がメインだからこの**グリーンズキング18**で十分だわ・・後は土壌分析して足りない第二要素や微量元素があればそれを加えるだけね・・日本ではグリーンだけで10種類以上もの肥料を使っているところもあるけど無駄なことね・・年間120gは、一回に10～20gの施肥を春から秋まで成長時期に合わせて複数回に分けて散布すること・・フェアウェーも樹脂被覆で3か月以上肥効がある**カスケードK**を春と秋に30gづつ播いて終わり・・・楽でいいわね・・

生徒：今までごちゃごちゃ肥料を播いていたのが何だったのか・・これで窒素量も十分入ってますしね・・

先生：そのとおりね・・もちろん土壌分析結果や土壌の状態、管理方法や管理機械次第では、特にベントグリーンに関してはアレンジする必要があるから心配な時はいつでも相談してね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp